

第41回理事会、第14回評議員会・第42回臨時理事会を開催しました

当財団の第41回理事会を2023年6月6日(火)、また第14回評議員会および第42回臨時理事会を6月22日(木)に、帝国ホテルを会場にリアル会議とオンラインによるハイブリッド形式で開催しました。

第41回理事会の議案は「2022年度事業および決算報告に関する件」「評議員会に推薦する理事候補・監事候補・評議員候補選任の件」「資産運用委員選任の件」の3件で、いずれも原案どおり承認されました。

第14回評議員会では、「2022年度事業および決算報告の件」「任期満了に伴う評議員選任の件」「任期満了に伴う理事選任の

件」「任期満了に伴う監事選任の件」の4件が審議され、いずれも原案どおり承認されました。

新任の評議員として井上由里子氏(一橋大学大学院法学研究科 教授)、大内智重子氏(株式会社 脱炭素化支援機構 社外取締役)、徳山日出男氏(一般財団法人 国土技術研究センター 理事長)が選任されました。

また、第42回臨時理事会では、「理事長選定の件」「専務理事選定の件」が審議され、理事長には中本祥一氏が、専務理事には岩下幹氏がそれぞれ選定されました。

貸借対照表

2023年3月31日現在

科目	金額 (単位: 千円)
I 資産の部	
1. 流動資産	441,851
2. 固定資産	
(1) 基本財産	25,727,081
(2) 特定資産	10,691,916
(3) その他固定資産	292,248
資産合計	37,153,098
II 負債の部	
1. 流動負債	65,869
2. 固定負債	74,569
負債合計	140,438
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	34,749,811
2. 一般正味財産	2,262,848
正味財産合計	37,012,659
負債及び正味財産合計	37,153,098

正味財産増減計算書

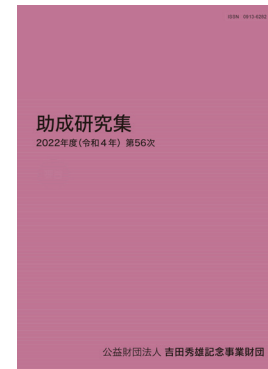
2022年4月1日から2023年3月31日まで

科目	金額 (単位: 千円)
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	542,111
特定資産運用益	55,458
受取寄付金	53,584
雑収益	4,207
経常収益計	655,362
(2) 経常費用	
事業費	567,379
管理費	94,289
経常費用計	661,669
評価損益等調整前当期経常増減額	△6,307
評価損益等計	△103,167
当期経常増減額	△109,475
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	0
(2) 経常外費用	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△109,475
一般正味財産期首残高	2,372,323
一般正味財産期末残高	2,262,848
II 指定正味財産増減の部	
基本財産運用益	784,096
特定資産運用益	168,020
特定資産売却償還益	6,307
基本財産評価損益等	△1,872,577
特定資産評価損益等	△771,075
一般正味財産への振替額	635,731
当期指定正味財産増減額	△2,320,960
指定正味財産期首残高	37,070,771
指定正味財産期末残高	34,749,811
III 正味財産期末残高	37,012,659

2022年度助成研究集の刊行

当財団は、2022年度(第56次)の助成研究成果の要旨をまとめた『助成研究集(要旨)』を刊行しました。掲載されている研究テーマ等は以下のとおりです。

助成研究成果のフルレポートは当財団のアドミュージアム東京内のライブラリーで閲覧できます。なお、本誌のPDF版は、当財団のホームページ上でご覧いただけます。



2022年度(第56次)助成対象者一覧

【常勤研究者の部】

代表者氏名	肩書	研究テーマ
【継続研究】 勝又 壮太郎 他1名	大阪大学大学院 経済学研究科准教授	危機がもたらす市場の変容とレジリエンス
【継続研究】 鎌田 裕美 他1名	一橋大学大学院 経営管理研究科准教授	With コロナ時代の観光地と住民のコミュニケーション ～住民の地域アイデンティティと態度の観点から～
【継続研究】 久保貞也	摂南大学 経営学部経営学科准教授	デジタルサイネージの効果測定の実証方法に関する研究
【継続研究】 須賀 万智	東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座教授	健康無関心層に対するヘルスコミュニケーション戦略に関する実証的研究～ビジュアル素材によるユーモア表現の可能性～
【継続研究】 小浜 朋子 他2名	静岡文化芸術大学大学院 デザイン学部デザイン学科教授	商品の「見つけにくさ」を可視化する売り場デザインの研究 ～視覚特性に着目して～
【継続研究】 関谷 直也 他2名	東京大学大学院 情報学環総合防災情報研究センター 准教授	コロナ禍の社会心理～マーケティング・コミュニケーションのためのリスク・差別・インフォデミック等の分析～
【継続研究】 田頭 拓己 他3名	一橋大学大学院 経営管理研究科准教授	ソーシャルメディアにおける炎上、購買行動と企業対応に関する理論・実証的研究
渡部 諭	秋田県立大学 総合科学教育研究センター教授	高齢者を惑わす mindless computing を用いたe コマースでの購買行動

【大学院生の部】

氏名	肩書	研究テーマ
【継続研究】 石井 悠紀子	東京大学大学院 教育学研究科博士後期課程	感情的落涙のポスター広告への効果
Kim Nahyun	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科博士後期課程	シニア向けSNSにおける弱い紐帯の形成と心理的効果～シニアのオンラインコミュニティの特徴とコミュニケーション行動～
齋藤 岳人	東京都立大学大学院 人文科学研究科博士後期課程	デジタルサイネージにおける記憶の定着を促進するフォントについての検討～読みにくさによって生じるヒトの意識・行動を反映した広告デザイン～
【継続研究】 高田 紘佑	ドイツ体育大学ケルン大学院 スポーツエコノミクス・ スポーツマネジメント科博士後期課程	スポーツ観戦を活用した訪日マーケティングに関する研究 ～Authenticな旅行経験に着目して～
西村 誠	東京都立大学大学院 人文科学研究科博士後期課程	広告内の食物への注意が食物渴望および購買意欲に及ぼす影響
野村 拓也 他2名	学習院大学大学院 経営学研究科博士後期課程	消費者物質主義の低下に関する探索的研究

※肩書は助成当時のもの

2024年度研究助成 募集のお知らせ

吉田秀雄記念事業財団では、2024年度研究助成の募集を開始します。広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーション等の研究を対象に審査の上、助成金を給付します。あわせて助成対象者が一定の枠内で利用できる消費者調査を提供します。提出された研究成果の中から優れた研究に「助成研究吉田秀雄賞」を授与します。応募の締切は、2024年1月10日(水)です。

1. 研究助成の目的

“広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーション等”に関する研究助成を通じて、その理論・技術および知識・情報の普及・発展を図り、もって学術・文化・経済の持続的発展および一般消費者の利益の増進に資することを目的としています。

2. 助成対象者・助成金額・件数

上記分野の研究に携わる研究者で、助成を受ける期間中、大学に所属する者。

(1) 常勤研究者の部

[対象者] 大学に在職する助教以上の常勤研究者(個人またはグループ研究)

[助成金額] 単年研究300万円以内/件、継続研究400万円以内/件

[件数] 10件程度

(2) 大学院生の部

[対象者] 博士後期課程に在籍する大学院生(個人またはグループ研究)

[助成金額] 単年研究50万円以内/件、継続研究60万円以内/件

[件数] 10件程度

3. 研究課題

(1) 自由課題(上記分野に関連する研究課題を自由に設定)

(2) 指定課題

①消費者との効果的なコミュニケーションを行う方法に関する研究

②広告・コミュニケーション研究やマーケティング研究の新たな方法論の開発につながる他領域における関連研究

③心と身体に関するマーケティング研究

4. 研究期間

(1) 単年研究…1ヵ年以内 (2) 継続研究…2ヵ年以内

5. 研究支援のための消費者調査

当財団では、助成対象者が利用できる消費者調査を実施します。

6. 選考方法

11名の選考委員により選考の上、2024年3月下旬開催の当財団理事会で決定します。

7. 結果の発表

2024年4月上旬に応募者あて個別に採否を通知します。

8. 研究成果の報告

常勤研究者の部では3万字程度以上、大学院生の部では2万字程度以上の研究成果を期限までに提出。

9. 応募手続き

(1) 応募方法

当財団の研究助成システム(<http://app.yjk-yhmf.net>)に登録の上、マイページからお申込みください。詳細は当財団ホームページで確認いただけます。

(2) 応募期間 2023年11月1日(水)~2024年1月10日(水)

(3) 応募先・問合せ先 公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団

10. 助成研究吉田秀雄賞

優れた研究には選考委員会の審査により「助成研究吉田秀雄賞」が授与されます。

Editor's Note

AI関連のさまざまな研究・開発においては、著作権が大きな課題である。前例主義に過度にこだわれば、将来のイノベーションには重荷となる。欧米諸国が先行導入する「フェアユース」規定(利用目的が公正であれば許諾なしで利用を認める)の日本版の早期実現に期待したい。(傾)

AI時代を生きるには、AIに関する知識に加えて、人間への理解も大切だ。人はどうやって言葉を習得してコミュニケーションを交わし、共同社会を形成したのか。そこに、AIという他者をどう前向きに受け入れるのか。人間そのものへの眼差しが深まっていく。(葡萄)

AIの功罪についての議論が注目を集めるようになりました。単にデータ上の最適解をはじき出しているとは思えない、我らの愛すべきドラえもんを開発しようとする研究から、どのような新たな視点が提示されるのか楽しみです。(ひろた)

AD STUDIES 2023年9月25日号 通巻85号
公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
〒104-0061
東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
TEL : 03-3575-1384 FAX : 03-5568-4528
URL : <https://www.yhmf.jp>

発行人 岩下 幹
編集長 布施博嗣
編集部 岩本紀子、沓掛涼香
編集協力 プレジデント社
表紙デザイン 八木義博+藤田将史、中谷晴子(Creative Power Unit)
撮影 片村文人

本文デザイン 南 剛(中曽根デザイン)
校正 株式会社ヴェリタ
印刷・製本 大日本印刷株式会社

©公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
掲載記事・写真の無断転載を禁じます。